

君のことを忘れたくないから 名刺をくれないか



ユーグレナ社長 **出雲 充**
いづも みつる

大学に入学してすぐ、パスポートをつくった。大学1年生の夏休み、生まれて初めて海外を訪れた。最貧国バングラデシュ、この国で1カ月アルバイトをした。

アルバイト先はグラミン銀行。貧しい人に小口の融資を行うマイクロファイナンスを発明した、貧者の銀行だ。

初めての海外では衝撃を受けた。こんなに大勢の子どもたちが栄養失調に苦しんでいるなんて。同時に感動した。世界で最も貧しい国で、ムハマド・ユヌス博士が設立したグラミン銀行は850万人の人を救うソーシャル・ビジネスに成長していたことに。

その社会的重要性が評価され、グラミン銀行とユヌス博士には2006年にノーベル平和賞が授与された。

「自分も世の中のためになる、ソーシャル・ビジネスがしたい」。

いつの日かユヌス先生と一緒に仕事をすることを夢見て、ミドリムシで起業した。栄養豊富なミドリムシで、バングラデシュの子どもを栄養失調から救うんだ。

何度もバングラデシュでユヌス先生と面談した。打ち合わせを重ねた。ミーティングを終えると、毎回名刺交換した。

「日本から来ました。栄養豊富なミドリムシで、子どもたちを元気にします」。

いつも同じあいさつ。多忙なユヌス先生に、

なかなか名前は覚えてもらえない。寂しいけど仕方がない。でもいつか、ミドリムシで起業するきっかけをもらったことを伝えたいなあ。そう思いながらバングラデシュを最初に訪れてからあつという間に16年の月日がたった。

ミドリムシ給食の量産体制が整い、栄養豊富なミドリムシクッキーをバングラデシュの小学生2500人に届けるプロジェクトを2014年に開始した。そして、2015年5月27日、バングラデシュの首都ダッカにあるグラミン銀行本部で、ユヌス先生と5分ほどの面会がかなった。「ミドリムシ給食が2500人から始めて、約5000人まで増えました」と伝えた。いつもと同じようにユヌス先生に名刺を渡そうと思ったら、唐突に声をかけられた。

「君のことを忘れたくないから、名刺をくれないか」。

翌日、ソーシャル・ビジネスの祭典の場で、ユヌス先生が語られた。

「ある日本人の学生がグラミン銀行でアルバイトをした。彼はバングラデシュのために栄養の勉強をして、ミドリムシで起業した。その日本人はバングラデシュのことを忘れずに、今日ミドリムシとともに帰ってきた。これがソーシャル・ビジネスだ」。こんなにうれしいことがあるなんて。起業して、本当に良かった。